

実際にやってみよう！ モデルプログラム活用の手引き



● 景観まちづくり学習の全体的な組み立て
 ・下の図は景観まちづくり学習の全体的な組み立てを示しています。
 ・景観まちづくり学習では、「気づく」、「調べる」、「考える」、「行動する」という一連の学習過程を想定しています。最初は、身近な「景観」に気づくことに始まり、段階を追って、現在のまちの「景観」がなぜそのようなになっているかという理由や「景観まちづくり」について考えるように促し、自分でもできる「景観まちづくり」に関する具体的な行動につなげていくという展開です。



● モデルプログラムを使ってみよう
 ・景観まちづくり学習の授業を行う上で活用できるよう、モデルプログラム(学習の題材)を用意しました。
 ・現在、下の図に示したような①から⑪までの11種類のモデルプログラムがあります。どれか一つのプログラムに取り組むのもよいですし、図の→などを参考にして、複数のプログラムを組み合わせ取り組むのもよいでしょう。適当な題材を見つけて、まずは取り組んでみませんか。

【モデルプログラムの構成】

各モデルプログラムは、それぞれ1枚のシート(A3サイズ二つ折り)にまとめられています。シート構成の概略は下の図に示すとおりです。

《表紙》

- タイトル (単元名・題材名)
- 内容の簡単な紹介
- 対象学年のめやす
- 関連する教科

《見開き：学習のねらい・内容・流れなど》

- 学習のねらい
- 学習活動
- 必要な用具・場所
- 学習の流れ(時間配分、学習活動、教師の指導、評価等)
- 指導上の留意点
- 発展へのヒント

《裏表紙》

- 事例紹介

1つのモデルプログラムは、2時間の授業を3~4セット(全6~8時間)をめやすとして完了できるように組み立てられています。もちろん、実際の授業では、例えば、導入、展開、まとめの一連の流れの中で、プログラムを組み合わせ自由に実施してもらって差し支えありません。

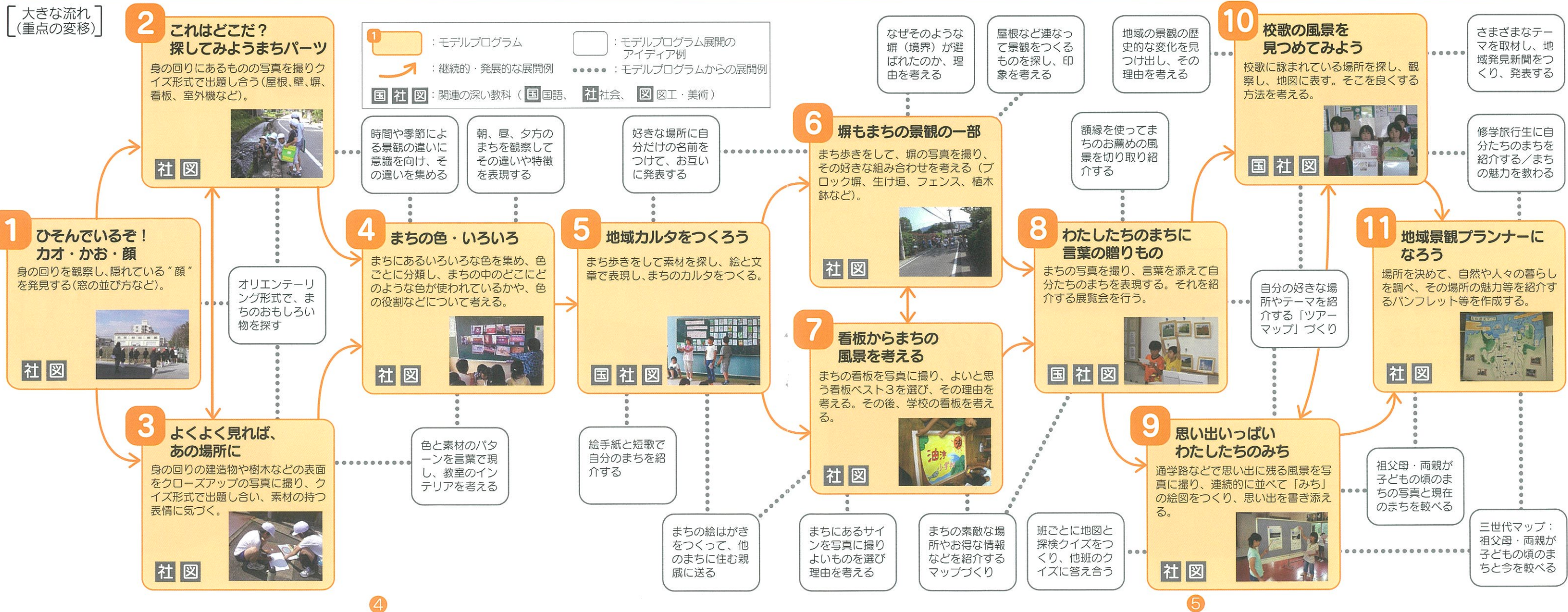
気づく

調べる

考える

行動する

表現する・発表する (常に取り組んだ成果を表現し、発表するようにする)



モデルプログラムを活用した取り組み事例



- 11種類のモデルプログラムを用意するために、平成19年度に全国18校の小学校で授業に取り組んでもらいました。その様子を事例集としてまとめてあります。ここではその様子を少しだけ紹介します。
- 事例集では、各校の取り組みについて、どのように授業を進めたかというプロセスや、どんな教材を用意したか、子どもたちの反応はどうだったかなど、いくつかの情報や留意点をコンパクトに整理しています。
- ひとつのプログラムに取り組んだ事例だけでなく、複数のプログラムを組み合わせ実施した事例も整理されています。モデルプログラムを活用した授業などをお考えの方は、ぜひご覧ください。オリジナルのプログラムを組み立てる時のヒントにもなるのではないかと思います。

わたしたちのまちの景観、見つけた！

テーマを決めてまち歩き

改めてまちを歩いてみると気づいていなかった景観がいろいろと見つかります



この木、ほんとうに大きかったんだね！



マンホールの蓋に何か書かれているぞ!? まちには面白い物がたくさん隠れているね

まちの歴史を探る手がかり発見! ちゃんとメモします



6年間通った思い出の道を写真に収めます

生け垣が映える構図で...

高いところから見てみると屋根の形が揃ってるね

この景観、どうしてこうなっているのかな？

専門家によるレクチャー

緑が映えるまちにしようと考えたんですよ



自分たちの住むまちを計画した専門家の説明に耳を傾けます

本やインターネットで調べ学習

図書館の本やインターネットを利用して情報収集



集めた資料をみんなで持ち寄って調べるポイントを整理しました

まちの人たちも先生役

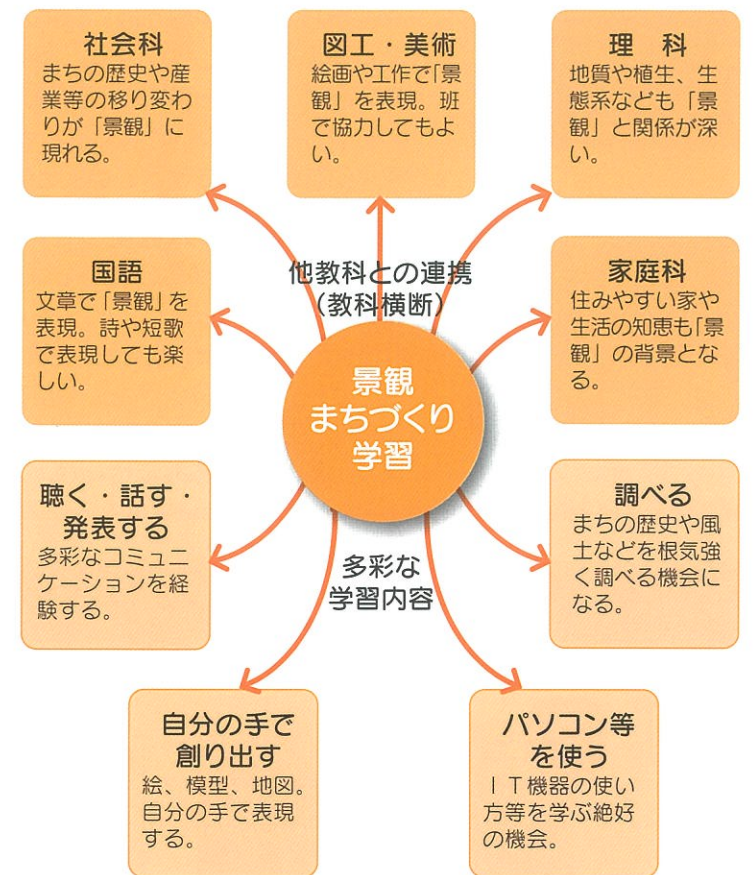
どんなところが大変ですか？



草木の手入れをしている方にインタビューをしました。知らない方に話しかけるのはちょっと緊張します

各教科等の学習を総合的に結びつけながら展開できる教科横断的な学習です！

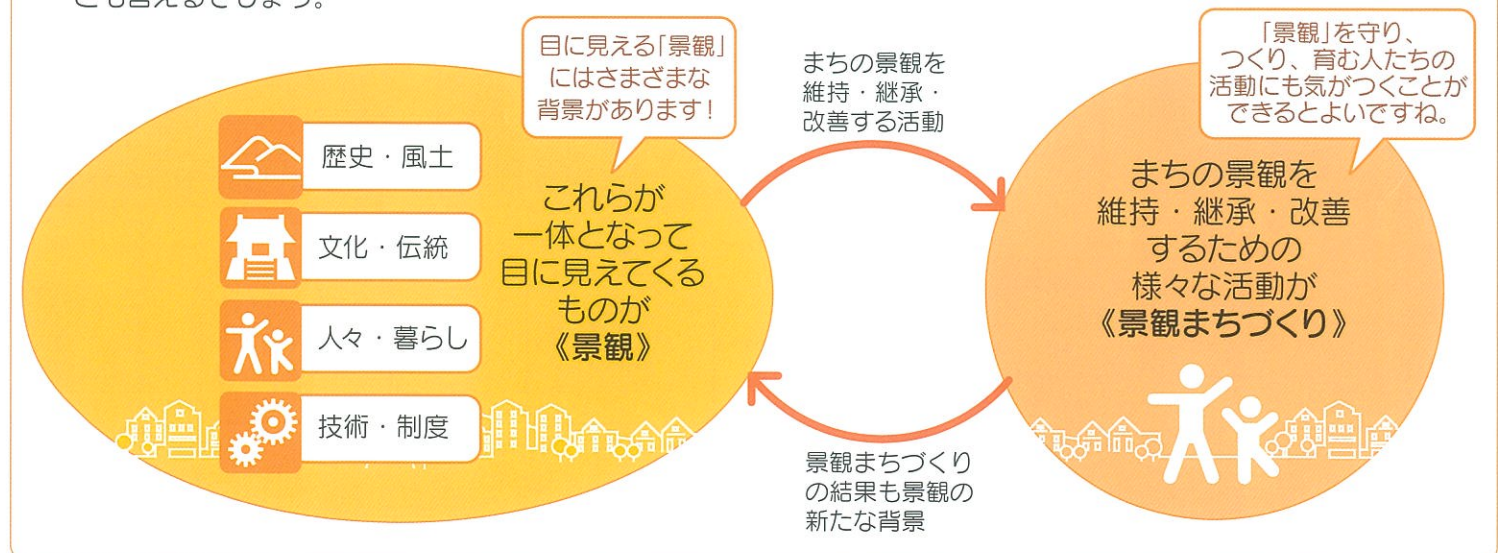
- ・ 景観まちづくり学習は、「総合的な学習の時間」で取り組む題材としてだけでなく、他の教科等の学習と組み合わせ展開することもできます。
- ・ 例えば、社会科の地域調べや歴史学習、国語の表現、図工の表現など関係づけながら、まちの景観を調べたり、景観の印象や感じた価値を詩のように表現したり、気に入った景観を写生したり、心に描く将来のまちの模型をつくったりしながら、景観まちづくり学習を進めることができます。
- ・ また、まちの人たちの話を聞きながら学習を進める中で、相手を敬う態度を身につけたり、多彩なコミュニケーション能力を育むことも期待できるでしょう。パソコン等を使って学習の成果をとりまとめることも考えられますし、地域の人たちの前で発表会などを行えば、地域社会の一員としての自覚を養うのに役立つでしょう。
- ・ このように、各教科の学習内容の充実に景観まちづくり学習を活用することもできるのです。



参考 「景観」とはどのようなもの？

「景観」とは、まちや地域がどのように見えるか、ということですが、その字が示す通り、対象となる景（風景、景色）があり、それを観る人がいて、はじめて成り立つものです。「景観」は、それを観る人の心に現れる景色だとも言えるでしょう。

「景観」には、地域の歴史、地勢や生態系などの風土、文化や伝統、技術の進歩や法律等の制度など人々の暮らしや経済活動などのさまざまな背景があります。「景観」には、人間と環境の関係が現れているのです。



景観まちづくり学習のススメ!

● 景観まちづくり学習とは

- ・ 景観まちづくり学習とは、まち学習・まちづくり学習の中でも、特に「景観」に注目して行う学習です。「景観」は、私たちを取り巻く環境の見え方、「景色、眺め、風景」のことです。それぞれの地域において、異なる自然条件や、歴史、文化等をもとに、人々のさまざまな営みが積み重なってつくられています。
- ・ まちの「景観」を知り、それを大切にしたい心を持った人が増えることが、それぞれのまちで個性ある美しいまちづくりが進むことにつながります。景観まちづくり学習は、「景観」に関心を持ち、良好な「景観まちづくり」に関わる意識を持った人づくりをねらいとした取り組みの最初の一步です。

● 景観まちづくり学習の意義

① 子どもたちの好奇心と感動する心を育む体験的な学習です



- ・ 建物の壁や塀、お店の看板やディスプレイ、道路の舗装や街路樹。見慣れたはずの学区からも、好奇心に溢れた子どもたちは様々な景観を発見します。
- ・ 「面白いな」、「知らなかったな」。そんな子どもたちのつぶやきを一つひとつ大切に育てながら、まちの景観の背景にある地域の歴史や生活の知恵、防災や防犯のための工夫などに気がつくきっかけをつくってあげてください。
- ・ まちを全身で感じる景観まちづくり学習は、子どもたちの感動する心と、小さなことから多くのことに気がつくことのできる瑞々しい感性を育む体験型の学習です。

② 多くの人とのコミュニケーションを通じてまちや暮らしに愛着を持てる地域を舞台とした学習です



- ・ 景観まちづくり学習の舞台は、子どもたちが住み暮らす身近な地域です。友達と色々な場所を訪れたり、店主や役所の人など周りの大人に質問したりして、多様なコミュニケーションを図りながら学習を進めます。
- ・ 子どもたちは、まちが、昔から多くの人たちによってつくられ、大切に守られてきたこと、そこで生活する人たちの思いやりに支えられていることに気がつきます。この「気づき」を大事に育みたいものです。
- ・ 地域を見直す景観まちづくり学習を通じて、大切なものや素敵な場所のたくさんあるまちや毎日の暮らしが、もっと楽しく、もっと好きになるでしょう。

③ 「総合的な学習の時間」で取り組む題材としてピッタリな広がりや深みのある学習です



- ・ 景観は、地域に固有の歴史や風土、文化や伝統、人々の暮らし方など、さまざまな事柄を背景に持つ総合的なものです。また、その景観を活かした景観まちづくりも地域の実態に応じた個性のあるものです。
- ・ そのため、景観まちづくり学習は、必然的にそれぞれの学校のある地域の特徴を踏まえて創意工夫しやすくなるでしょう。また、学習を進める上では、地域の人々の参加・協力が有効であるとともに、グループ学習や学年を横断して取り組むことも可能です。また、調べ、考え、表現する活動が中心となります。こういった総合的で広がりや深みのある特徴からすれば、景観まちづくり学習は、まさに「総合的な学習の時間」における取り組みとしてピッタリです。

まちは子どものワンダーランド。ぜひ一度、景観まちづくり学習に取り組んでみてください。子どもたちは、きっといろいろな「景観」や「景観まちづくり」の存在に気づき、調べ、考え、行動することでしょう。

調べたことや考えたことをまとめよう!

いろいろな作業に挑戦

学習の成果を分かりやすく効果的に伝える方法を考えながらまとめ作業に取り組みます



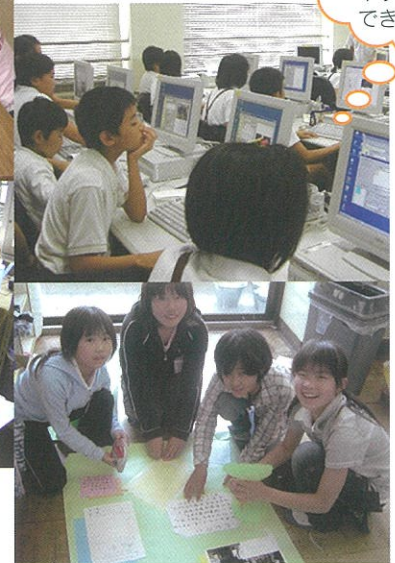
まち探検での発見を地図にまとめます



撮影した写真に思い出を書き添えて風景アルバムづくり

撮影した写真を使ってみんなでまちのクイズづくりに挑戦

もっと分かりやすい表現にできないかなあ



調べた成果をパソコンでまとめて発表の準備をします

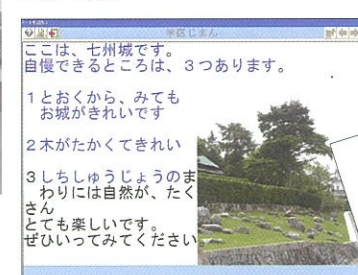
壁新聞で地域の魅力や美しさを発信します

作品、紹介します!



まちで見つけたおもしろい表情の写真を撮ってクイズにしました

自慢の景観を写真と文章で紹介しましょう!



まちの魅力を地域カルタで表現

みんなでつくったまちの地図! 改めて気づいた景観がたくさん



友だちや家族、まちの人たちに発表したよ!

みんなの前で発表です



写真館の店員がニュース番組のレポーターの質問に答える形式で発表しました



学習の成果をクイズ形式で下級生に報告



作品のカルタを使ってみんなでカルタ取り大会

あっ!!! 見つけた!!!

この写真きれいだね



みんなの写真をギャラリーに展示しました

みんなで楽しみました

モデルプログラム活用



モデルプログラムを活用するにあたっての留意点をQ&A形式でまとめました。

Q₁ 「景観」や「景観まちづくり」という言葉が難しいです。どのように捉えたらよいですか？

A₁ 簡単に言えば、「景観」とは、目に見えるまちの景色(見た目)のこと、「景観まちづくり」とは、まちの景色を大切にしようとして行う活動のことと考えてください。景観まちづくり学習は、まちの見た目に着目して行う学習です。普段、見慣れたまちを見直し、まずはまちの見た目に関するいろいろな要素に気づくことを期待しています。また、3ページの参考解説もご覧ください。

Q₂ モデルプログラムには、動機づけや振り返りの時間が含まれていませんが？

A₂ モデルプログラムには学習の主要な部分のみを示してあります。しかし、学習するにあたり、動機づけは重要な要素です。より効果的な学習とするためには、それぞれの地域の状況や子どもたちの関心等に合った動機づけを導入時に行う必要があるでしょう。また、学習を振り返る時間をまとめの中で実状に合わせて取ることは有効です。

Q₃ モデルプログラムに示されている授業時間数は自由に組み替えて構いませんか？

A₃ モデルプログラムに示した授業時間数は、一定の学習効果が得られる最小限の時間数を想定したものです。まち歩きを丁寧に行ったり、動機づけや振り返りの時間を加えることなども含め、各校の事情に応じて、自由に組み替えて展開して構いません。

Q₄ モデルプログラムに対象学年の目安が示されていますが、他の学年で実施しても構いませんか？

A₄ 対象学年の目安は、モデルプログラムの内容に応じて設定していますので、基本的には目安とした学年での実施が望ましいでしょう。ただし、モデルプログラムをヒントとして、学年に応じた学習内容にアレンジして景観まちづくり学習を行うことは可能です。

Q₅ カメラがありません。カメラを使用しないとモデルプログラムを活用した授業はできませんか？

A₅ まちの見た目の多様性に気軽に触れる上では、カメラを使って授業を行うことが効果的ですが、それ以外にスケッチや工作で表したり、文章で表すといったことも考えられます。また、行政の景観まちづくり担当部署に相談してみると、カメラ等の貸出が受けられるかも知れません。なお、フィルムカメラで撮影した場合は、同時にデータ化しておくことをお勧めします。

Q₆ 子どもたちに十分なまち歩きを行わせるためには、引率者が足りないのですが？

A₆ 景観まちづくり学習では、まちに出て、いろいろな景観に気づくことが非常に重要です。他の先生や保護者などの協力が得られるよう相談してみたいと思います。実は、子どもだけでなく、保護者や地域の方々にも景観に関心を持っていただきたいのです。子どもたちと一緒に歩きながら、大人もさまざまなことに気づくでしょう。また、行政の景観まちづくり担当部署に協力を依頼してみるのもよいでしょう。

【「景観まちづくり」学習のための資料等について】

- ◆この手引きで紹介している景観まちづくり学習のためのモデルプログラムや実践事例は、景観まちづくり教育ホームページ (<http://www.mlit.go.jp/crd/townscape/gakushu/index.htm>) で公開されています。こちらを参照いただくと、より詳細な内容をご覧いただけます。本冊子と併せてぜひ活用ください。
- ◆この手引き及びモデルプログラム、実践事例集は、右の検討ワーキンググループで討議してとりまとめたものです。また、文部科学省や教育委員会、学校・先生方に、さまざまなご協力をいただきました。

検討ワーキンググループ

[座長]	小澤紀美子	東京学芸大学教授
	大道 博敏	文京区立駒本小学校教諭
	勝田 映子	筑波大学附属小学校教諭
	志村 優子	まちづくり/まち学習プランナー
	木元 千春	北区立赤羽小学校教諭
	大野 慶子	自治体職員・地域政策学博士

(順不同・敬称略・所属等は平成20年3月現在)

発見!

わたしたちの
まちなちの
大好きな
まちなち

[学校における景観まちづくり学習の手引き]

身近なまちを題材にして学び 豊かな感受性とコミュニケーションの力を育む 景観まちづくり学習に取り組んでみませんか？

誇りと愛着を持つことのできる美しいまちをつくり、育て、次の世代へと伝えていくには、子どもの頃から身近なまちや良好な「景観」に対する関心を持たせ、ひとりひとりの景観やまちづくりに対する意識を高める必要があります。

この『発見！わたしたちのまち 大好きなまち』は、このようなことをねらいとして、主に「総合的な学習の時間」を用いて展開できるような、景観まちづくり学習のモデルプログラム(題材)をいろいろ用意しています。また、このモデルプログラムを用いて、実際に小学校の授業で景観まちづくり学習に取り組んだ事例も紹介しています。

ぜひ、これらを活用して、みなさんの学校でも、子どもたちの豊かな感受性と多彩なコミュニケーションの力を育む景観まちづくり学習に取り組み、これからの美しいまちづくりへの意識を持ち、良好な景観を守り育てるために行動するような人づくりに努めていただくことを期待いたします。

企画監修 東京学芸大学名誉教授 小澤紀美子

目次

- 景観まちづくり学習のススメ! 2
- 実際にやってみよう! モデルプログラム活用の手引き 4
- モデルプログラムを活用した取り組み事例 6